

高瀬神社 社報

越中一宮

第38号

平成25年7月1日

越中一宮高瀬神社

<http://www.takase.or.jp/>

撮影：南部スタジオ

社頭講話

「結（ゆい）」

宮司 藤井秀弘

夏になると日が伸びて一日が長くなります。ひと通り仕事をして時間ができるとついテレビの前に座り、スイッチを入れてしまいます。最近はこのチャンネルも韓国の番組かコマーシャル（健康食品か保険）ばかりで、すぐに見るのをやめてしまおうのが日課となっています。

中国や韓国から日本叩きをされているにもかかわらず（政治と文化はちがうといいますが）、どうしてあのように優先的に放送しているのか不思議に思っています。また、コマーシャルも必要以上に放送をしているようで、消費者の立場でいうならば、少々くどいのではないかと思います。日本の番組はどうでしょう。良いものばかりかというかとそうでもありません。視聴者が番組に求めるものは違って当

然ですが、私にとって本場に必要番組は少ないといえます。

ニュースは世の中の情報を知るために必ず見えています。最近には犯罪の報道ばかりです。過去にも犯罪は起きていましたが、現在の社会ほど多くなかったように思います。人を殺したり、騙したり、自分の利益のためだけを考え、しかも手段を選ばない卑劣な事件が目につきます。

利益を追求することは資本主義社会において当然のことでありますが、それだけを追求すると、今のような自分勝手な社会が生まれて、自己、自社の都合が最優先されることになり、自分の意に反する人や消費者、また、社会に目を向けなくなってしまうのです。このような風潮が事件を起こす土台にあるのではないのでしょうか。また、テレビ

局の番組編成も視聴者の声というよりも会社の儲けに目が向いているのではないかと考えてなりません。老齢の私にすればいろいろなことについて、「昔はよかった」と言いたくなります。

東日本大震災が発生した後、全国的に「絆（きずな）」という言葉で国民が結束しました。現在も復興に向けて様々な活動が行われている一方で被災者への暴言や嫌がらせ、瓦礫の受け入れ拒否など反対の活動が存在するのも事実です。表立っては綺麗ごとを唱えながら、実際は逆のことをしています。それは自分にとって利益にならないことだからです。せっかく「絆」という良い言葉で一つになったのに、段々とつながりが弱くなり、切れるのではないかと心配しています。

当神社が鎮座する南砺市の山間部には「結（ゆい）」という言葉があります。田植え、稲刈りなどの農作業や合掌造りの屋根葺替え作業など人力や材料や資金を提供しあう活動を指しています。そこには「お互いさま」

という根本があり、他人のために尽くすという尊い心があります。

「結」の心で、まず近所で助け合いをして、その輪が少しずつ広がって「絆」を強めていくようになってほしいと思います。時間が経つにつれて薄れてゆく奉仕の精神をもう一度確認して、自己の良心を呼び覚まし、平和な社会、「絆」で結ばれた社会の実現にむけて努力することが大切なことだろうと思います。

ひとり一人の努力というものは小さいのですが、全国民が一齐に良心を再生すべく努力をしたら、きっと「お互いさま」という日本の優れた伝統精神が継承でき、素晴らしい国民性を見失うことなく成長できるのではないかと思います。テレビ局をはじめ報道機関は良心の再生や正しく生きるための番組を制作、放送してもらいたいものです。中国や韓国の代弁をするのではなく、本当に日本国や国民のための報道機関であってほしいと願っています。

祭 事 暦

春 季 祭 (大 祭)

四月十日午前十時より「春季祭」が行われ、約二十名の参列者と春の訪れを喜び、今年一年の五穀豊穡と平安を祈りました。



祭典では宮

司祝詞奏上の後、巫女が神楽「浦安の舞」を奉納。全員で「高瀬神社奉賛歌」を奉唱しました。



祈 年 穀 祭 (大 祭)

六月十日午前十時より「祈年穀祭」が斎行され、氏子崇敬者をはじめ農業関係者約四十五名と、農作物に病害虫の災いがないよう祈願しました。

御神前で御神火が灯され、宮司が祝詞を奏上。古来より「誘蛾灯」として用いられた、鳥居前の「かがり火」に点火し、農業の無事を祈り拝礼しました。

祭典終了後には、多年に亘り農業発展に寄与された「農事功労者」に、表彰状と記念品が贈られました。



(農事功労表彰)

松本 篤治氏 (南砺市泉沢)



永年に亘り農協職員として、農協事業、地域農業の発展に尽力され、平成十三年三月には農協が合併し、その中心となって万全な経営体制の確立に向け手腕を発揮されました。

その後のカントリエレベーター設備改善に伴う増資、支店・事業所の統廃合など、組合員の理解を得ながら盤石なる基盤のもと、農協の事業運営の推進と地域農業の振興に寄与した功勞により表彰されました。



坂下 明雄氏 (南砺市林道)



いち早く、地元営農組合の設立に尽力され、一集落一組織を目標に地域内をまとめて設立し、りんどろ営農組合の初代組合長となった。その後も担い手組織協議会会長を歴任され、地域農業の振興に尽力されました。

また、旧城端町議会議員を三期、町議会議長も歴任されるなど、その責任感と実行力、指導力を発揮されました。農協にあつては、常務理事の要職に就き、地域農業の振興とんと農業協同組合の発展に寄与された功績により表彰されました。

観月祭 お月見まつり

出雲大社 平成の大遷宮奉祝 大土地神楽奉納

本年五月に出雲大社で六十年ぶりに行われた「本殿遷座祭」を奉祝して、島根県の伝統芸能「大土地神楽」を奉納します。

詳細は（八月一日以降）当神社ホームページにてお知らせします。

・奉納日 九月二十二日（日）

・場所 高瀬神社御本殿

名称 大土地神楽

（国指定重要無形民俗文化財）
保持者 大土地神楽保存会神楽方

所在地 島根県出雲市大社町杵築西

会長 桐山和弘

会員数 三十四名

発足 約三百年前
（平成二十五年四月一日現在）

概要 大土地神楽は、古くから大土地荒神社の神主によって舞われていましたが、寛政十年（一七九八年）の「袴家順番帳」等の記録によると、宝暦年間（一七六〇年前後）には既に素人神楽が舞われ、その頃から子ども



大土地荒神社での奉納風景

も舞を奉納していることが確認でき、三百年以上途絶えることなく民衆によって受け継がれています。平成十七年二月には国の「重要無形民俗文化財」に指定されており。

その舞い振りや奏楽は、毎年十月の大土地荒神社例祭で、昔ながらの形で受け継がれてお



り、出雲大社の門前町として、盛んだった芝居興行による影響もあってか、とかく観衆を意識し、楽しませる所作・演出が随所に見受けられます。また能舞の要素が多分に含まれた舞いも残っており、腰に「まくら」を背負った上に衣装を着けるといった、独特な容姿となっています。

現在の活動としては、大土地荒神社例祭はもとより、出雲大

社例祭への奉納神楽、県内外での公演もしています。平成四年にアメリカ・ポートランドやエレンズバーク、平成五年には、フランスの「パリ日本文化祭」やイギリス・ロンドンでの公演といった好機に恵まれ、国外でも神楽を披露することが出来ました。また、国譲り神話の舞台で「稲佐の浜夕刻篝火舞」を自主開催する等、神楽の素晴らしさを一人でも多くの方に知っていただくよう公演活動も行なっております。



献穀田だより

「御田植祭」 斎行

奉耕者

築田敏裕氏

井波地域中核農業士協議会

(吉川順一会長)

五月十八日、南砺市野能原(井波)の献穀田で「御田植祭」が斎行されました。

大勢の住民が見守る中、紅白の衣装と花笠を身に着けた早乙女五名が、築田さんから「コシヒカリ」の苗を受け取り、心を込めて植えられました。

九月中旬には「拔穂祭」を行い、収穫した稲は「懸税」として伊勢の神宮に奉献されます。



早乙女奉仕者

樋爪 馨月さん (高校生)
高熊 莉歩さん (中学生)
朝倉 樹子さん (中学生)
齋藤 里菜さん (中学生)
杉森 千夏さん (中学生)



金婚おめでとう

ございます

金婚者

南砺市高瀬

中嶋清志・静ご夫妻

(千歳会)

南砺市三清東

高野 斎・信子ご夫妻

(福寿会)



四月八日の「金婚祭」にて、高瀬地区老人クラブ連合会・大野保会長より「金婚祝証」と記念の「銀杯」が贈られました。

八乙女山・開山祭

六月二日、南砺市井波地域の八乙女山山頂(標高六五七メートル)に鎮座する「八乙女山風神堂」で「開山祭」が行われました。

祭典には南砺市観光協会井波支部・窪田育夫支部長をはじめ約四十名が参列し、八乙女山から吹き降ろす強風、「井波風・八乙女おろし」を鎮め、風災無く豊作であるよう祈りました。

祭典終了後には、「越中井波八乙女風神太鼓」の奉納演奏が行われました。



参 拜 日 誌 抄

(平成二十五年三月～五月)
(敬称略)

「三月」

二日 山野小学校同級会 十八名

九日 南砺市立城端中学校 保護者一同

二十一日 北海道神宮 権欄宜 須田真矢

二十七日 米原商事(株) 代表取締役社長 内記正弘 外十七名

三十日 香川県神社庁仲多度支部 支部長 金関 正 外七十二名

「四月」

五日 (株)かんでんエルファーム 代表取締役 岩崎 実 南砺市シルバー人材センター 理事長 長尾益勇

六日 南砺市交通安全協会 会長 石崎直樹

八日 氏子清掃奉仕(村総出) 高瀬地区老人クラブ連合会 (金婚奉告祭・清掃奉仕)

十八日 富山県西部森林組合砺波支所 代表理事組合長 桃野忠義 外五十八名

二十三日 北海道岩見沢市 砺波神社総代長 黒島勝太郎 外三名 (創祀百二十年奉告)

二十七日 バルスエンジニアリング(株) 代表取締役 水野哲朗 (創立三十年奉告)

九日 七尾市文化協会おこぜの会 代表 大森カズ 外十三名

十五日 庄川SC安全協議会 会長 荒堀正文 外三十名

十六日 静岡県磐田市 三嶋神社 総代 樽松靖彦 外三十五名

二十一日 静岡県磐田市 府八幡宮 宮司 幡鎌 繁 外四十七名

二十二日 福光高等学校卓球部 (必勝祈願)

「五月」

氏子参拝旅行

五月二十七日より、氏子崇敬者の皆様と二泊三日の日程で、「平成の大遷宮」で賑わう出雲大社をはじめ、倭文神社、砂の美術館等、島根県と鳥取県の名所を巡りました。

出雲大社では千家隆比古権宮司様より六十年ぶりに大修造された御本殿や御社殿、また普段入る事の出来ない境内地等、懇切丁寧に説明いただき、楽しく有意義な氏子旅行となりました。



新参集殿

四月二十四日、今秋完成する「新参集殿」の地鎮祭が斎行されました。

祭典には工事関係者約二十名の参列のもと、権宮司の祝詞奏上に続いて、宮司が「刈初の儀」を行いました。



また、六月二十九日には「上棟祭」が行われ、工事の安全を祈りました。



七夕祭・技芸上達祈願祭のご案内

ぎげいじょうたつきがんさい

日時 八月七日（水） 午後三時より

「七夕祭」にあわせ織姫さまのはた織り・裁縫上手にあやかっつて、習い事が上達するよう祈願する「技芸上達祈願祭」を行います。ご家族お揃いで是非ご参列下さい。

なお、七月十三日（土）から八月七日（水）まで御本殿前にて短冊を用意しておりますので、自由に願い事を書いて納めて下さい。

※ご祈祷入口からお入り下さい。



○「几帳」
花まつ 松村 政希殿
吉彰殿
光祥殿
制作者
彫刻家 中嶋外志男殿
平成二十五年六月五日

奉納

いぬ
戌の日（七月～十二月）
七月七日・十九日・三十一日
八月十二日・二十四日
九月五日・十七日・二十九日
十月十一日・二十三日
十一月四日・十六日・二十八日
十二月十日・二十二日
「腹帯」のお祓いも行いますので、ご持参下さい。

○「境内剪定作業」

小矢部市津沢

（株）越路ガーデン

平成二十五年六月六日・七日

※恒例の奉仕作業ですが、本年も爽やかな境内にして頂きました。

辞令

斎藤 直己

定年退職

長尾美由紀

願いにより事務員を免ずる
（平成二十五年六月三十日付）

編集後記

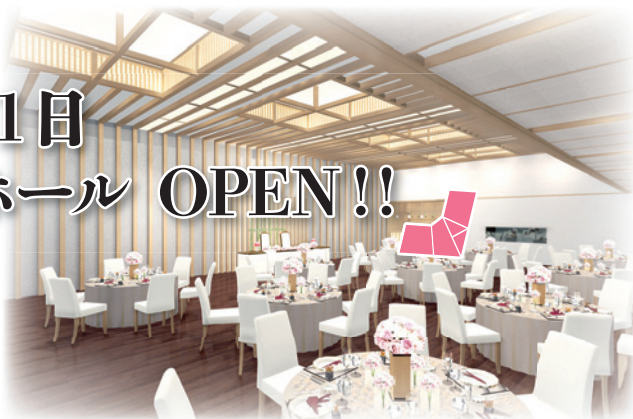
「平成の大遷宮」が行われている出雲大社では、五月十日・十一日に勅使参向のもと遷座・奉幣祭が斎行されました。いよいよ伊勢の神宮では「お白石持行事」が行われます。

この神社神道佳節の年に、お子様・お孫様とご家族揃って伊勢・出雲詣でいただければ幸いです。

【表紙写真】

高瀬遺跡の菖蒲

2013年10月1日 新バンケットホール OPEN!!



この地で二千年の歴史をもつ越中一宮 高瀬神社は、
縁結びの神様として多くの神前挙式を執り行い、
お二人の幸福を願ってきました。

この伝統ある神聖な儀式は変えることなく、
ウェディングのあり方を見直したいと思います。

ご結婚までのさまざまなご準備は、
一生に一度の、お二人にとってかけがえのない時間。
お二人の結びつきをより強く、人生をより豊かにする、
そんなお手伝いができるよう努めさせていただきます。

そして、世界にひとつだけの晴れの日が、
新たな家族のつながり、絆を深める場として、
一生の宝ものとなりますように…。



只今
御予約
受付中

10月1日にオープンする新バンケットホールでのご結婚披露宴のご予約を承っています。お気軽にお問い合わせ、ご相談いただきますよう、お待ち申し上げます。

あなたの人生に、神社がある。越中一宮 高瀬神社

〒932-0252 富山県南砺市高瀬291
ご予約はTEL0763-82-1131

高瀬神社

検索